

Clinical Cloud by MEDIPAL には各領域を牽引するオピニオンリーダーによる良質な医療情報を掲載しています。

最新動画
情報

登録無料



第47号

令和5年2月1日

発行元 株式会社Doctorbook
東京都千代田区内神田一丁目14番10号

vol.
047

POINT 1

血管性認知症のメカニズム

POINT 2

脳梗塞があるとアルツハイマー病の発症率が20倍に増加

POINT 3

混合型認知症と今後の治療指針



認知症

アルツハイマー病と血管性認知症の密接な関係性

認知症治療の行く末

21:31 血管性認知症について

超高齢社会へ突入し、脳卒中診療では、国の循環器病対策推進基本計画と、日本脳卒中学会、循環器学会が共同で行う脳卒中と循環器病克服5か年計画を両輪として施策が進む一方で、注目を浴びているのが、認知症と循環器病の関係性になります。脳は全身の2.5%の重量でありながら、全身の20%近い血液が灌流する臓器であり、循環障害が認知症に直結することが知られています。血管性認知症は、全認知症の20〜30%を占めるとされ、多発梗塞性、皮質下血管性、局在病変型、低酸素/低灌流性など、様々な病型を含みます。最近の物忘れ外来では、アルツハイマー病と血管性認知症のオーバークラップである、混合型認知症が一般化し、診療の際は、循環器病を含む複雑系としてのアプローチがかかせません。そこで、認知症と循環器病の関係性をテーマに猪原先生に詳しく伺いました。



国立研究開発法人
国立循環器病研究センター
脳神経内科 部長

猪原 匡史 先生

- 専門分野
脳血管障害と認知症の臨床および研究
- 所属学会
日本神経学会専門医・指導医・代議員、米国内科学会上級会員(FACP)、米国心臓協会フェロー(FAHA)、日本脳卒中学会専門医・幹事、日本認知症学会専門医・指導医・評議員、日本脳血管・認知症学会・理事、脳卒中治療ガイドライン2021作成委員、認知症疾患診療ガイドライン2017作成委員 他

POINT 1

治療用アプリで期待される行動変容の定着

POINT 2

治療用アプリはEBMと個別治療を実現

POINT 3

第III相臨床試験の結果からみる臨床的な意義とは



高血圧

最先端の高血圧診療は治療用アプリ
重要な治療の選択肢

5:28 高血圧症患者さんの生活習慣修正をトータルサポート、治療用アプリによる変わる高血圧診療

医療DXが推進されつつある近年、生活習慣病や慢性疾患などの診療でアプリを用いた治療の可能性が模索されています。アプリを用いた治療では、医療機関で治療用アプリを処方し患者がインストールし、治療経過や体調を記録し、再診時に記録情報を診療に活かします。このサイクルで行動変容の定着が期待されます。治療用アプリは「医学的根拠に基づく正しい支援を実施」、「治療を経て薬事承認・保険適用されている」、「医師が疾患を診断し必要な患者へ処方すること」を最新の医療で、これまでの一般的なヘルスアプリとは一線を画しています。CureApp社が開発した高血圧治療補助アプリは、第III相臨床試験の主要評価項目として、治療登録12週時点における24時間自由行動下血圧24hour ambulatory blood pressure monitoring (ABPM)による24時間の収縮期血圧に、有意な降圧を示しました。各メディアでも注目を浴びている高血圧治療補助アプリの実情について、詳しく解説いただきました。



株式会社 CureApp CEO
兼 医師

佐竹 晃太 先生

- 職歴、所属学会
日本赤十字社医療センター 呼吸器内科
日本遠隔医療学会 理事 / デジタル療法分科会長
日本禁煙学会 評議員
株式会社 CureApp 代表取締役社長

片頭痛

医師会員限定動画

CGRP関連抗体薬のスムーズな導入のために
-片頭痛患者さんの希望とエムガルティの投与初月からの有用性-



6:46



注目動画1

- POINT 1 片頭痛患者が発症抑制薬に期待する選好性とは
- POINT 2 初回2本投与のメリット
- POINT 3 エムガルティの投与初月の有用性



慶應義塾大学 医学部神経内科 専任講師

滝沢 翼 先生

近年登場したCGRP関連抗体薬は、既存の片頭痛予防治療薬で治療が奏効しない症例に対しても有効性が確認されており、これまでの治療に加えてCGRP関連抗体薬の導入を検討される機会も増えてきた。片頭痛患者さんの予防治療薬に対する選好性を調査した報告では、患者さんの87.3%が「有効性」、次いで64.4%が「即効性」が望まれている一方で、CGRP関連抗体薬の導入に際して、どれくらい効果があるのか、いつまで投与を継続する必要があるのか、導入を躊躇される患者さんもある。エムガルティは初回に2本を、以降は1カ月間隔で1本を皮下投与することで、初回投与後に速やかに血清中ガルカネズマブ濃度が定常状態に到達する。反復性片頭痛患者を対象とした海外第III相試験では主要評価項目である片頭痛日数のベースラインからの変化量の6カ月平均値はプラセボと比べて有意に減少し、50%反応率も投与1カ月後から6カ月後までいずれの月においても両群間で有意差が認められた。※
(※出展 承認時評価資料:照会事項に対する回答として承認時に提出、成人反復性片頭痛患者を対象としたガルカネズマブの第III相無作為化二重盲検プラセボ対照試験(CGAH試験/EVOLVE-2試験))
提供:第一三共株式会社

アトピー性皮膚炎

アトピー性皮膚炎診療の新たな選択肢
~早期介入と重症化予防を実現するために~



Part1 14:15

Part2 17:04



- POINT 1 アレルギーマーチを取り巻く様々な要因
- POINT 2 アトピー性皮膚炎と感作のリスク
- POINT 3 小児におけるアトピー性皮膚炎治療の重要性

近年、立て続けに新規薬剤が登場しているアトピー性皮膚炎診療。小児で使用可能な外用薬、抗体医薬も増え、多様な選択肢が存在します。診療のベースとなる診断治療アルゴリズム、適切な治療介入時期、新規薬剤も含めた重症度別での薬剤選択の考え方を中心に詳しく解説いただきました。

国立成育医療研究センター アレルギーセンター 総合アレルギー科 診療部長

福家 辰樹 先生

●専門分野 小児科学、アレルギー学



Slide 1: 積極的な早期介入 - 長期維持療法による介入開始までの期間が短いと重症化リスクが上昇する可能性

Slide 2: アトピー性皮膚炎の存在は食物・吸入抗原ともに曝作リスク

Slide 3: 全身性アトピー性皮膚炎は他の小児慢性疾患と比べてQOLが低い

注目動画2

CLINICAL CLOUD LIVE
クラウドライブ

Clinical Cloud LIVE

第1回 地域医療連携講演会



日時

2023年 2月15日 水

第1回 14:00-15:00

第2回 18:00-19:00

演題

ビジネスモデルで考える地域医療連携

- ① 都市部急性期病院の医療圏、市場を考える
- ② 企業に学ぶ、価値創造のプロセス
- ③ ビジネスモデルで考える疾患別医療連携

演者

学校法人 聖路加国際大学 聖路加国際病院 医事課マネージャー

岡田 太郎 先生

参加費無料

Clinical Cloud

無料会員登録が必要になります

※第1回と第2回は、同じ内容のご講演となります。
※質疑応答は、第1回の時間帯に限り実施いたします。予めご了承ください。